

自主の党はいかに発展したか

—福島で開催された日朝友好・平和のための集いにおける報告—

尾上健一

21世紀自主フォーラム世話人

本日の集いには福島において日朝友好運動を熱心におこなってこられた福島朝鮮学校を支援する会会長の住谷圭造先生をはじめ各界のみなさんが参加されています。

福島では、長いあいだ日朝友好運動をはじめ進歩的な運動が継続しておしすすめられてきました。

住谷先生をはじめとしてきょう参加されたみなさんは、政治的基軸をもって長いあいだ堅実に活動を蓄積されてきました。

確固とした思想を堅持し地道に活動を積み上げていくなれば、きびしい状況のなかであっても、多くの人を励ますことができます。

朝鮮は世界で唯一アメリカにたいして堂々と対峙し、社会主義の旗を高くかかげて闘っている国です。朝鮮は同情する対象ではなく、むしろ朝鮮から学ぶことのほうが多くあります。朝鮮をみるとき、あるいは朝鮮と連帯するとき、まず真摯に朝鮮の社会主義建設の現実やそのもとになっている思想理論について研究する立場が重要です。

これから 2016 年 10 月 10 日に創立 70 周年を迎える朝鮮労働党建設の歴史と活動について述べたいと思います。

長期にわたるきびしい闘争を経て創立

朝鮮労働党は 1945 年 10 月 10 日、約 20 年間の準備期間を経て創立されました。創立 70 周年を迎える朝鮮労働党は、準備期間も含めると約 90 年にわたって活動してきたことになります。

金日成主席は 1926 年、打倒帝国主義同盟（トゥ・ドウ）を結成します。

打倒帝国主義同盟は、朝鮮の解放と独立をなしとげ社会主義共産主義を建設するだけでなく、全世界で共産主義を建設することを目的としてかかげました。

打倒帝国主義同盟の綱領は、朝鮮労働党の綱領の基礎になりました。また打倒帝国主義同盟がかかげた自主性の原則は、朝鮮労働党の建設と活動の原則になりました。

打倒帝国主義同盟は、チュチェ革命偉業を勝利へ導くための朝鮮最初の革命組織でした。打倒帝国主義同盟の結成は、チュチェの党建設の出発点となりました。

1930 年、金日成主席は?倫会議において「朝鮮革命の進路」という歴史的な報告をおこ

ない、自主的に革命党を創立すること、基礎党組織を先に結成し、それを強化拡大する方法で党を創立すること、そして党創立の準備活動を反日闘争と密接に結びつけるという党創立方針を示しました。

主席の党創立方針は、当時の朝鮮と国際的な実情、革命の要求に合致した独創的な路線でした。

1925年に結成された朝鮮共産党は、日本帝国主義による弾圧と派閥争いによって1928年に解散を余儀なくされていました。

コミンテルン（第三インターナショナル）は一国一党制の原則をうちだしており、当時、主に中国東北地方で活動していた主席を中心とする朝鮮共産主義者は、中国共産党がある中国で二つの共産党をつくることはできませんでした。

事大主義、教条主義にそまった朝鮮の分派分子は国内の大衆のなかにはいり、大衆に依拠して活動するのではなく「党中央」を宣布しコミンテルンの承認を得ようとたちまわっていました。

金日成主席は?倫会議が閉会した翌日、古い思想にそまっていない純潔な青年を中核として新しい型の党組織を結成し、同志の隊伍を拡大していきました。

1934年、反日人民遊撃隊が朝鮮人民革命軍に改編されるにともない、金日成主席は朝鮮人民革命軍党委員会を組織しました。抗日武装闘争をとおして朝鮮国内と中国東北地方、そして反日人民遊撃隊の部隊内に組織された党組織を指導するためでした。

党委員会の著しい成果としてあらわれたのが1936年の祖国光復会の創立でした。祖国光復会の会長には金日成主席が選ばれました。祖国光復会の創立は党の大衆的基盤を強化するうえで歴史的意義をもつものでした。

祖国光復会は、民族の解放と独立を願うすべての人を結集する反日民族統一戦線体であり、広範な大衆にたいする党の組織的系統的指導を保障する役割を果たしました。

朝鮮では打倒帝国主義同盟を結成してから抗日武装闘争を経て、20年近くものあいだ一貫して党創立のための準備活動がおこなわれてきたのです。血みどろの闘いの過程で朝鮮の革命家たちは、政治思想的に鍛えられ、朝鮮人民のために生き闘う信念をいっそう強くしていきました。

党の思想的組織的基礎を形成するための活動の成果のうえで、1945年10月10日、北朝鮮共産党中央組織委員会が結成されました。

金日成主席は長いあいだ抗日パルチザン闘争をつづけてきた革命家や各地で組織活動をしてきた共産主義者を党の中核として結集しました。

さらに1946年、これまでマルクス・レーニン主義に距離をおいてきた人も含め、労働者、農民、勤労インテリを中心にさまざまな団体や人々を幅広く網羅して、別の勤労者党であった新民党と合党して朝鮮労働党に改組し、大衆的政党として発展させました。

金日成主席は、その後も党の統一団結のためにきびしい闘争をおこないました。朝鮮戦争の最中にも朝鮮労働党中央委員会総会を三回開き、戦後の1956年には朝鮮労働党第三回大会を開催して、修正主義者、教条主義者と闘争し、党隊伍の純潔性を保障しました。

自主の党、民衆の党、革命完遂の党として

朝鮮労働党は結成後まず、党の中核、組織的根幹をかため、つぎに、さまざまな人たちを糾合しつつ党隊列の統一を保障するように活動をおこないました。

朝鮮労働党は党の大衆的基盤を幅広く広げながら、中核部隊の思想を一つにして党内をまとめていきました。

現在、朝鮮では党の積極的な活動によって大衆の政治思想的な自覚が高まり、党員と大衆の思想状態に大きな差がなくなってきました。朝鮮労働党は大衆基盤がしっかりした大衆的な党であると言えます。

朝鮮労働党は、金日成・金正日主義を指導思想にし、全社会の金日成・金正日主義化を最高綱領としてかかげています。

党の性格と特徴は、その指導思想によって規定されます。

金日成・金正日主義は「以民为天（民をもって天となす）」の思想であり、民衆の自主性を実現するための思想です。

朝鮮労働党の特徴は、なによりもまず民衆の自主性を完全に実現するために闘う自主の党であるということです。

党は、たんに政治体制の変革や社会主義共産主義社会建設だけを目的にしているのではありません。党は、民衆の自主性を完全に実現する組織でなくてはならないのです。

民衆にとって大切なことは、あらゆる帝国主義にたいする従属を拒否し、自主を確立することです。

反動支配階級、帝国主義者は民衆の自主性を抑圧し、民衆を搾取して社会を支配してきました。民衆は自主性にたいする自覚が高くないがゆえに、実際は生産活動を担い歴史の創造者としての役割を果たしてきたにもかかわらず、社会と歴史の主人としての地位を占めることができませんでした。民衆は階級社会が始まって以来、長期間にわたって、生産物を支配階級に奪われ、支配者に従属する生き方を余儀なくされてきたのです。

朝鮮人民も日本帝国主義による支配下では、自分の名前を日本名にかえさせられ、朝鮮語を学ぶこともできない苛酷な状況にありました。人民は、弾圧をおそれて暴力的な帝国主義の支配に甘んじなければならなかったのです。

金日成主席は党組織を建設するに際して、自主性を堅持し実現していくことを強調しました。

当時の自称革命家たちには二つの偏向がありました。一つは、ソ連や中国を仰ぎ見て、大国に自分たちの政党としての存在を認知してもらおうとする動きです。自分の国の実情にもとづいて革命をすすめるのではなく、大きなものにひれ伏す習性が活動家のなかにはびこっていました。もう一つは、人民に依拠しないで、まず自分たち何名かだけが集まって、いくつもの派閥をつくっていたことです。人民のなかにはいらず少数で分派的な活動をしていたのです。

自主性は帝国主義にくみせず、人民のために責任をもって生きていくことに表現されます。自主性をかかげる人たちの政治的組織をつくっていくことが自主の党の内容です。

自主性を実現するための活動は、自然発生的にはなしえず、どのような個別の団体によってもできません。自主性の実現を至上の課題としてかかげ、どのような困難があっても貫く革命党の導きが不可欠なのです。

朝鮮労働党の二つめの特徴は、民衆の党であるということです。

自主性のための闘いは、広範な大衆が主人になっておしすすめなければなりません。

戦後の日本の労働運動では、いわゆる動員主義が多くみられました。機械的に人数を割りふって人を集める方法は、参加する人を主人としてみていないところからでてきたものです。運動の主人は一部の組合活動家であり、一般組合員は動員される対象にされていました。すべての人たちを主人としておしたるためには、民衆を主人とみておしたて服務する政党の存在が重要になります。

朝鮮労働党の三つめの特徴は、革命を完遂する党であるということです。

マルクスは全世界的範囲で革命が短期間で勝利すると考えていました。

1990年を前後してソ連・東欧社会主義が崩壊して資本主義化が進行し、少なからぬ社会主義国が市場経済を導入するようになりました。社会主義が勝利する道は、もはや遠いのではないかと考える人たちもでてきました。

卓越した指導者がいても、その思想と業績を継承する後継者を育てなければ革命は継続されません。

ベトナムの初代国家主席であったホーチミンは民衆から愛されましたが、後継者を育てなかつたため革命の成果を継承することができませんでした。

中国の国家主席であった毛沢東は中国共産党の創立に参加し、日本帝国主義との闘いをりっぱに指導しましたが、後継者をめぐって紛糾し中国革命は紆余曲折を経ることになりました。

指導者がいかにりっぱであっても、肉体的な年齢には限界があります。帝国主義はいまなお生き残っており、自主の道をすすもうとする国を攻撃してきます。革命の最終的な勝利を一代の革命家だけでなしとげることはできません。革命偉業は二代、三代と継続しなければならず、三代でも勝利しなければ四代、五代と闘いつづけなければならないのです。

どのような困難があろうとも、いかに長期性をおびようとも革命を完遂するのが朝鮮労働党の立場です。代がかわるごとに路線が大きくかわるようなことがあってはなりません。社会主義を発展させる方向にすすむべきであり、資本主義、帝国主義にくみして支配者のしもべになってはなりません。

革命を完遂するための継承

金日成主席は党創立後 1994 年に逝去されるまで、朝鮮労働党の指導者として革命と建設を導きました。

金日成主席が信条としたのは、抑圧され搾取された民衆を歴史の主人としておし立て、民衆の尊厳と価値を最高の境地で輝かせることでした。民衆を天のようにいただいて献身する、これこそが主席の活動の出発点であり目的でもありました。主席は、一貫して以民為天を座右の銘として活動しました。

金正日総書記は、金日成主席が健在なときにはつねに主席を補佐し、主席が逝去した後の約 17 年間は、朝鮮労働党総書記として活動しました。

金正日総書記の生涯はひたすら人民のためにつくし、自身のものは何も残さず、自己のすべてを人民にささげた生涯であったと、金正恩第一書記は述懐しています。

金正日総書記は 2011 年 12 月 17 日の早朝、現地指導にむかう途中、列車のなかで急逝しました。朝鮮では、その日総書記が乗っていた車両ごと錦繡山太陽宮殿に保存しており、総書記が執務中であったときの書類もそのまま残しています。

金正日総書記は、金日成主席の革命思想を金日成主義と定式化しました。朝鮮の幹部たちは総書記が新たに解明し発展させた理論もあるため、金日成・金正日主義と呼んでもよいのではないかと進言しましたが、総書記は自分の名前を使うことに反対しました。

金正日総書記は自分の銅像を一つもつくらせなかったため、総書記が逝去したとき供花する場所がなく、朝鮮人民はやむなく金日成主席の銅像に供花しました。

金正恩第一書記は、自分自身を目立たせるようなことはいっさいせず、金日成主席や金正日総書記の思想と指導に忠実に活動しています。

金正恩第一書記は総書記が逝去した翌年の 2012 年 4 月 11 日におこなわれた朝鮮労働党第四回代表者会で、朝鮮労働党第一書記に就任しました。

金正恩第一書記は、金日成主席と金正日総書記の思想や革命業績はきりはなすことができないため、金日成・金正日主義と統一的に表現するのがふさわしいと述べました。

金正恩第一書記は、金正日総書記の業績を永遠のものにするため、みずからは総書記という呼称は使わず、第一書記に就任しました。

金日成主席によってきりひらかれたチュチェ革命偉業は、金正日総書記によって継承発

展させられ、さらには金正恩第一書記によって勝利へと導かれています。

自主の道、先軍の道、 社会主義の道をすすむ

金正恩第一書記は2012年4月15日に金日成主席誕生100周年慶祝閱兵式でおこなった演説のなかで、朝鮮はこんご、自主の道、先軍の道、社会主義の道をまっすぐにすすむと宣言しました。

自主の道をすすむという路線は、社会主義化することにとどまらず、人民の自主性を完全を実現するために闘うということです。

先軍の道は、朝鮮のように帝国主義と直接対峙しつねに侵略の脅威にさらされている国にとっては避けてとおることのできない路線です。歴史をふりかえるならば帝国主義によって侵略の対象にされた国々は、軍事力を強化し、自国と自国人民を守らなければ、国が崩壊させられてしまいました。

武装解除させられたイラクやリビアがアメリカ帝国主義の軍事侵略によって崩壊させられ廃墟と化したことは象徴的な例です。帝国主義によってフセイン体制やカダフィ体制が崩壊して以降、イラクやリビアは無政府状態がつづき混乱をきわめています。アメリカはそれらの国の政権を崩壊させたなら、アメリカにとって都合のよい国になるだろうと期待していました。ところが、いまなおアメリカの支配下にあるとは言えません。

朝鮮はこれまでつねに帝国主義侵略者の武力によって人民が抑圧され、殺戮されてきました。人民の命と自主性を守るためにはかならず軍事力が必要です。朝鮮がもつ軍隊は帝国主義の軍隊とは異なり、侵略者にたいして国と人民を守るための軍隊であり、国を防衛し、社会主義建設の先頭に立って闘う人民のための軍隊です。帝国主義国の軍隊のように他国を侵略するための軍隊ではありません。

朝鮮とアメリカは停戦状態におかれたままであり、アメリカは南朝鮮に核兵器を含む最新兵器で武装した米軍を駐留させ、つねに侵略の機会をうかがっています。アメリカは毎年大規模な米韓合同軍事演習をおこなって戦争雰囲気をつくり挑発しています。帝国主義者が存在している以上、朝鮮が軍事力を弱めることはできません。

帝国主義者は朝鮮半島が緊張していると宣伝していますが、朝鮮半島ではいまのところ戦争は起こっていません。朝鮮が先軍政治を実施しているため、アメリカはあえて手出しできないのです。

人民の自主性を実現し、人民が豊かで文化的な生活を享受できるようにするためには社会主義を確固と堅持しなければなりません。

朝鮮の経済は人民に奉仕するための社会主義経済であり、朝鮮が人民を搾取する資本主

義経済を導入することはありえません。

市場経済とは、自由競争の原理にもとづく資本主義経済を意味します。市場経済の目的は利潤追求であり、資本主義における利潤獲得は本質的には搾取によるものです。搾取、収奪しなければ企業あるいは国家の財政がうるおうことはありません。搾取、収奪は強制的な抑圧をとまいません。

個人経営者が自分や自分の家族の生活のために地道に働いて収入を得ることを搾取とは言いません。

しかし、資本主義国が国家として富の蓄積を保障し、利潤を生みだしていくためには、さまざまな暴力的方法によって勤労者を弾圧し、酷使することが前提になります。

市場経済を導入することによって、経済活動が活発になり収入も支出も増え一見豊かになるようにみえます。しかし、出発点とプロセスにおいて徹底した勤労者にたいする搾取と抑圧がおこなわれ、その結果として利潤が蓄積されることをみなければなりません。朝鮮の政治や経済にたいする認識があやまったままで、朝鮮はいつまで貧しい道を歩むのか、他の国のように豊かになればよいのではないかと考えるのは正しくありません。

市場経済を導入した国において、統計上、経済発展が数字としてあらわれたとしても、国内では苛酷な搾取、抑圧がおこなわれていることをみなければなりません。

朝鮮労働党は社会主義の完全勝利のために闘うだけでなく、朝鮮の自主的平和統一のために闘うことを当面の任務としています。

祖国の統一は朝鮮民族の悲願であり、金日成主席も金正日総書記も一貫して、そのために闘ってきました。

朝鮮は一日も早く民族が統一することを願っており、平和な環境で経済建設をおこないたいと考えています。

朝鮮労働党はまた、全世界の自主化を実現することを当面の任務としています。

金日成主席は、自主化された世界は帝国主義と植民地主義が完全に一掃された世界であり、すべての国、すべての民族の自主権が完全に実現した世界である。全世界を自主化すれば、すべての国、すべての民族が独立、繁栄の新しい社会を建設して民衆の自主性を完全に実現できる広い道がきりひらかれることになるとのべています。

金日成主席は、朝鮮労働党は朝鮮革命だけではなく、世界の自主化のために党をあげて闘っていくということを明らかにしたのです。

朝鮮労働党建設の基本原則とその活動

朝鮮労働党建設の基本原則の一つは、党内に唯一思想体系を確立することです。

朝鮮労働党は主体性を確立し、あらゆる分派的要素に反対する闘争をおこなってきました。

た。

唯一思想体系とは、一つの思想を上部組織から下部組織まで浸透させることです。

一つの思想とは領袖の思想であり、中間幹部の主観や意見では動かないことを意味します。

領袖は労働者階級の最高代表者であり、社会的集団の運命をきりひらき、労働者階級の歴史的使命をまっとうしていくうえで決定的役割を果たす存在です。

民衆の根本的要求を自己の信念とし、一つの生命体として結合した集団の目的意識的なはたらきかけによってはじめて革命運動が前進し勝利していきます。

朝鮮労働党建設の基本原則の二つは、党と大衆が渾然一体になることです。

党を大衆的に建設し、民衆の利益を徹底的に擁護し民衆に奉仕する党にしなければなりません。

党を大衆的政党として建設するうえでは、階級的、革命的な原則を堅持することが重要です。また党自体を組織的思想的に強化し、組織性と思想性の高い同志の隊伍を拡大していくことを前提とします。

朝鮮労働党建設の基本原則の三つは、党建設において継承性を保障することです。

チュチェの革命偉業は継承性をおびるがゆえに、党建設偉業は代を継いでおこなわなくてはなりません。

党活動の基本は対人活動です。対人活動を基本にして党の指導を強化するのは党の使命と任務を果たす基本的方途になります。

朝鮮労働党の建設と活動の過程は、対人活動を第一工程とし、対人活動によって党を強化し、革命と建設を指導してきた過程です。

対人活動を基軸にして党の指導を強化するためには、民衆の運命に責任をもつ母なる党としての本分を果たすことが重要になります。

党と大衆との関係は、たんに指導するものと指導されるものとの関係ではなく、本質的には政治生命を与えるものとうけとるものとの関係です。党は対人活動をとおして命を与えていかなくてはならないのです。党と大衆との関係はまた、運命を見守るものと運命を託すものとの関係です。

母なる党の本分にふさわしく党活動をおこなうためには民衆をもっとも尊く力強い存在とみなし、心から信じて愛する主体的な観点が具現されなくてはなりません。民衆にたいする愛情と信頼をどの程度もっているかということは、活動家の人民的な気風や品性に表現されます。

対人活動を基本にして党の指導を強化するためにはまた、党的政治的方法を具現することが重要です。

党的政治的方法とは、政治活動を優先させて、その人の自覚をうながし、その人の意思

でみずから動くようにする方法です。そのためには党の要求や政策が理解できるように、党の意図や背景までくりかえし解説し説得する必要があります。

朝鮮問題は日本の社会の根幹にかかわる

内閣府の2012年の調査で「日本の平和と安全の面から関心をもっていること」は何かという質問にたいして、一番目に多い回答は「朝鮮半島情勢」になっています。多くの人が朝鮮は危険な国であると考えており、朝鮮から日本を守るために安保体制、米軍の軍事力が必要だという結論にいきつくのです。

8月16日に、中谷元防衛大臣が沖縄に行き、翁長雄志知事と会談した内容が報道されました。最初に中谷防衛大臣が辺野古は普天間基地移設のために必要であり、朝鮮にたいする抑止力を高めなければならないという政府方針を述べました。翁長知事は防衛大臣にたいして「(沖縄よりも朝鮮に近い)九州北部の方がよいのではないか」と言ったとのことです。

これらの発言の前提として朝鮮半島に政治的軍事的緊張があるために、在日米軍基地が必要であり、日米安保にかんする関連法案が必要であるという構図があるのです。この構図は第二次世界大戦後、いまなおつづいています。

週刊『エコノミスト』に『『永続敗戦国』の憲法に優先する米国安保法制が示した二重の法体系』と題する評論が掲載されています。そこでは、日本には日米安保条約と日本国憲法の二重の法体系がある、改憲であれ、護憲であれ、二重の法体系の構造に手をつけられないのなら、論議しても意味はないと指摘しています。

アメリカと結んだ条約は、その国の憲法や法律よりも優先するということが世界各国の常識のようになっていきます。国内法にそって国際条約を修正するのではなく、国際条約の新たな要求にそって国内法を改正するということが、日本や世界でもおきています。

日朝友好運動は、たんに世界に数多くある国のうちの朝鮮という一つの国との友好運動ではなく、またもっとも親しくすべき隣国との友好運動にとどまるものでもありません。朝鮮問題は日本の戦後の戦争と平和の根幹にかかわる問題としてあると言えます。

日本のなかでは朝鮮にたいする正しい理解をもつことが妨げられているばかりか、偏見や誤解を植えつけられ、朝鮮はこわいというような根拠のないデマが蔓延しています。

朝鮮を正しく理解することが、日本の運動に正しい基軸を与えることにつながっていきます。

朝鮮の指導思想であるチュチェ思想をよく学ぶことが朝鮮を正しく理解することになります。チュチェ思想を深く研究し、朝鮮を理解することは、朝鮮との友好連帯を強めることにとどまらず、日本の自主化、民主化、平和化につながる、日本の社会変革の決定的な

指針を手にするようになります。

歴史的に植えつけられた朝鮮排外主義や戦後70年間つづいた対米従属路線を転換させるのは簡単なことではありませんが、この活動をめきにしては新しい日本、民衆が主人となった社会を展望することはできません。

まず自分自身を変革することを先行しながら、たゆまず身近な人にはたらきかけていくことが重要です。

チュチェ思想を指針とする朝鮮労働党建設の思想と歴史、その活動に学ぶことは、日本において多くの人々を主人としておしたて自主性にもとづく新しい運動をおこなっていくうえで大きな意義があります。

(2015年8月26日、文責編集部)